

4 春から増加に転じた鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、2002年から海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられ、03年後半に回復基調となった。06年からは、新興国などの経済拡大に伴う輸出増加にけん引され、生産はさらに増加した。07年に入ると高水準を維持しながらも伸びは鈍化し始め、10月を山に緩やかな減少傾向となった。08年前半は前年の傾向が続いたが、9月のリーマンショックを契機に輸出が急激に減少し、国内需要の減少も相まって、戦後類のない急速かつ大幅な減少を記録した。09年に入ると、鉱工業生産は、自動車生産がけん引する形で3月からは増加に転じた。

(2年連続で減少した生産指数)

09年の鉱工業生産指数は74.1で前年比29.9%減となり、2年連続で前年を下回った。愛知県鉱工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全22業種中輸送機械工業、一般機械工業、電子部品・デバイス工業など21業種で低下し、上昇したのは化学工業1業種のみであった(図表4-1)。

図表4-1 2009年の業種別生産指数(愛知県)

(2005年=100) (%)				
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	74.1	-29.9	-29.9
鉄鋼業	646.2	68.8	-32.1	-1.987
非鉄金属工業	139.1	74.8	-24.4	-0.318
金属製品工業	352.7	84.2	-14.4	-0.474
一般機械工業	1207.4	51.1	-46.3	-5.037
電気機械工業	456.6	68.5	-36.0	-1.663
情報通信機械工業	182.7	84.0	-33.0	-0.714
電子部品・デバイス工業	262.1	78.1	-26.1	-0.684
輸送機械工業	4549.8	76.1	-32.1	-15.496
精密機械工業	33.2	100.6	-18.8	-0.073
窯業・土石製品工業	352.6	66.9	-34.3	-1.164
化学工業	267.9	96.4	1.2	0.028
石油・石炭製品工業	33.6	88.5	-10.4	-0.033
プラスチック製品工業	463.2	83.4	-21.5	-1.004
パルプ・紙・紙加工工業	84.4	85.6	-11.7	-0.090
繊維工業	149.3	57.9	-32.5	-0.394
食料品工業	400.6	92.6	-1.2	-0.042
ゴム製品工業	166.0	80.8	-26.3	-0.454
家具工業	89.2	76.2	-21.0	-0.170
印刷業	113.8	90.1	-3.6	-0.037
木材・木製品工業	31.8	70.8	-21.2	-0.057
その他製品工業	14.5	78.6	-15.1	-0.019
鉱業	3.3	54.9	-23.6	-0.005

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:愛知県統計課「あいちの鉱工業」

(全国と本県の状況)

本県と全国における鉱工業生産に占める業種別のウェイト(2005年基準)を見ると、本県では、輸送機械工業が45.5%と他の業種を抜き出て高く、これに次ぐ一般機械工業が12.1%と、この2業種だけで全体の60%近くを占めている。特に輸送機械工業は、本県の鉱工業全体における影響力を年々強めている。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は1.8%、電子部品・デバイス工業は2.6%と2業種併せても4.4%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2009年の業種別生産指数(全国)

(2005年=100) (%)				
	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	81.1	-21.9	-21.9
鉄鋼業	599.7	72.5	-30.1	-1.803
非鉄金属工業	211.7	77.4	-21.8	-0.441
金属製品工業	566.8	77.9	-17.8	-0.923
一般機械工業	1318.2	80.3	-20.0	-2.553
電気機械工業	607.3	78.9	-21.4	-1.258
情報通信機械工業	433.4	83.4	-19.2	-0.827
電子部品・デバイス工業	799.3	100.0	-20.8	-2.025
輸送機械工業	1685.8	74.6	-32.5	-5.830
精密機械工業	102.0	84.6	-28.1	-0.324
窯業・土石製品工業	293.0	76.8	-21.0	-0.576
化学工業	1181.3	95.3	-4.8	-0.546
石油・石炭製品工業	99.9	90.2	-6.0	-0.056
プラスチック製品工業	383.7	82.1	-15.8	-0.569
パルプ・紙・紙加工工業	241.0	85.8	-13.9	-0.320
繊維工業	200.9	67.1	-18.7	-0.298
食料品・たばこ工業	721.2	102.3	1.8	0.125
ゴム製品工業	153.6	73.9	-28.8	-0.442
皮革製品工業	12.3	61.7	-22.7	-0.021
家具工業	85.3	70.1	-15.9	-0.109
印刷業	180.7	106.2	-1.2	-0.023
木材・木製品工業	57.3	70.3	-15.3	-0.070
その他製品工業	44.7	41.2	-72.6	-0.471
鉱業	20.9	93.6	-9.2	-0.019

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:経済産業省「鉱工業指数年報」

一方、全国では、輸送機械工業が16.9%、一般機械工業が13.2%、合計で約30%となるため、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、IT関連品目の多い情報通信機械工業は4.3%、電子部品・デバイス工業は8.0%と2業種併せると12.3%となり、本県での割合の3倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、02年

7-9 月期から対前年同期比がプラスになって以来好調が続き、06 年は世界経済の回復にけん引され、前年比7.1%増という高い伸びを示し、07 年も同3.9%増と高水準を維持した。08 年にはいると、世界経済の後退に伴って増加幅が縮小していき、7-9 月期には前年同期比 1.3%減と低下に転じ、リーマンショックの影響が出始めた10-12 期は同21.9%減となり、大幅な低下となった。09 年は、前年からの世界同時不況を受けて、1-3 月期は同 46.4%減という前年同期のほぼ半減という状況にまで落ち込んだが、世界各国で採られた自動車購入支援策等の経済対策の寄与もあり、4-6 月期は同 39.0%減、7-9 月期は 25.7%減と徐々に低下幅は縮小し、10-12 期は同 2.2%減と前年とほぼ同水準にまで回復した。続く 10 年 1-3 月期には、同 54.1%増と大きく増加に転じた。

また、本県では、08 年 1-3 月期は 115.3 と全国の 109.5 を大きく上回っていたが、落ち込みが大幅であったため10 年 1-3 月期は 63.2 と全国の 94.3 を大きく下回った。

一方、全国では、04 年後半から I T 関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速、05 年は前年比 1.3%増と伸びが鈍化した。06 年は再び勢いを取り戻して同 4.5%増と好調に推移した。07 年は、伸びが鈍化した、同 2.8%増と好調を維持した。08 年は、本県と同様の動きを示し、7-9 月期には同 1.4%減と前年割れとなり、10-12 月期は同 14.5%減と大幅な低下となった。

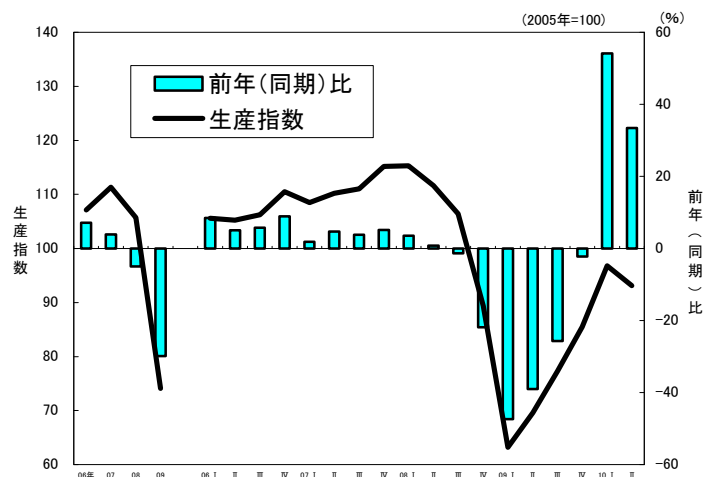
09 年も同様に、景気後退を受けて 1-3 月期は同 34.6%と大きく落ち込んだが、輸出依存度の高い輸送機械工業のウェイトが本県に比べ小さいため、本県ほどの落ちこみはなかった。その後は経済対策の効果で、4-6 月期は同 27.4%減、7-9 月期は 19.4%減と本県同様徐々に減少幅は縮小し、10-12 期は同 4.3%減となった(図表 4-1、4-2、4-3、4-4、4-5)。

図表4-3 生産指数の推移(愛知県・全国)

		愛知県		全国	
		指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2008	年間	105.7	-5.0	103.8	-3.4
	1-3	115.3	3.6	109.5	2.4
	4-6	111.6	0.8	108.1	0.8
	7-9	106.4	-1.3	104.6	-1.4
	10-12	89.4	-21.9	92.8	-14.5
2009	年間	74.1	-29.9	81.1	-21.9
	1-3	63.2	-47.4	74.2	-34.6
	4-6	69.6	-39.0	79.0	-27.4
	7-9	77.3	-25.7	83.2	-19.4
	10-12	85.5	-2.2	88.1	-4.3
2010	年間	-	-	-	-
	1-3	63.2	54.1	94.3	27.5
	4-6	69.6	33.4	95.7	21.0

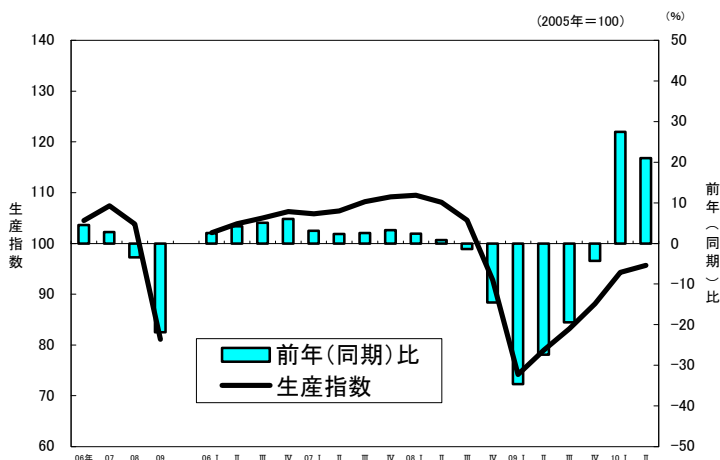
注1: 期別の指数は季節調整済指数
注2: 対前年同期増減率は原指数から算出

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



資料: 経済産業省「鉱工業生産・出荷・在庫指数」

(3年連続で減少した投資財)

本県における09年の生産を財別にみると、生産財、消費財、投資財、全て前年比減となった。

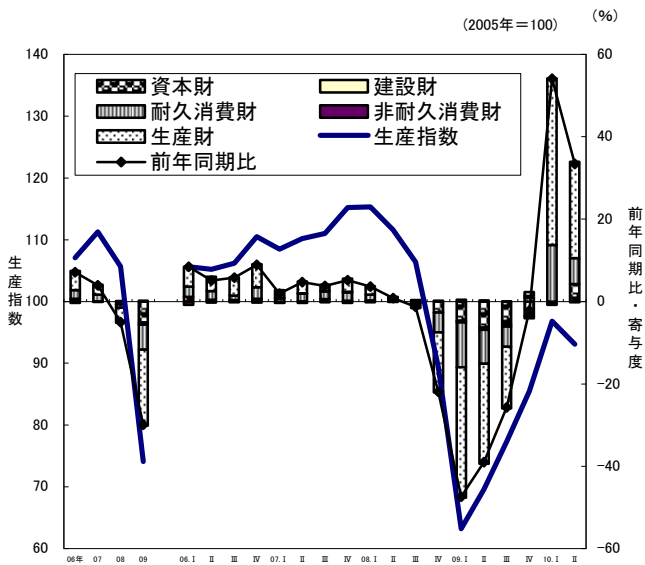
投資財のうち資本財は、製造業の不振から前年比42.8%減と大きく減少し、2年連続の減少となった。また、建設財は、経済対策の影響で国内の公共工事は増加したものの、企業の設備投資や住宅需要の減少が続いてことから同16.1%減と3年連続で減少した。投資財全体では、3年連続で前年を下回り、同37.2%減と前年に比べ大幅な減少となった。

消費財のうち耐久消費財は、乗用車などで前年から続く輸出不振が響き同31.0%減と大きく減少し、2年連続の減少となった。また、非耐久消費財は、加工食品などが増加したことから、同5.4%増と3年連続で増加した。消費財全体では同24.6%減となり、2年連続の減少となった。

生産財は前年後半からの輸出不振に伴う生産の大幅減少の影響を受け、2年連続の減少となる同30.2%減となった。

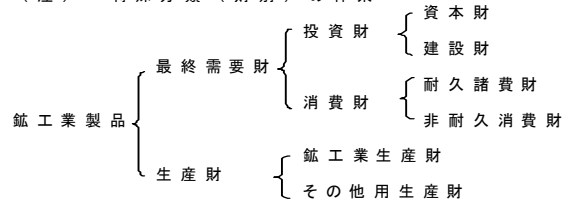
このように、09年は、前年からの急激な景気後退の影響を受けて大きく落ち込み、年後半から一部経済対策の効果もあったが、前年比では非耐久消費財を除く全ての財で大きく減少した(図表4-6)。

図表4-6 鋳工業生産 財別寄与度の推移



資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

(注) 特殊分類(財別)の体系



(主要業種の動向)

2009年は、前年からの急激な景気後退の中、本県経済をけん引してきた主力産業である輸送機械始めほとんどの業種で、前年の実績をこれまでに大きく下回った。

本県の鋳工業生産の中で際立ってウェイトの高い輸送機械は、輸出依存度が高い業種であることから、リーマンショック後の世界的な景気後退の影響を最も強く受けたため、09年の対前年増減率29.9%減のうち15.5%減分を輸送機械が寄与した。これを寄与率にすると51.8%を占めることになり、本県鋳工業生産の減少の半ば以上が輸送機械によるものとなっている(図表4-1)。

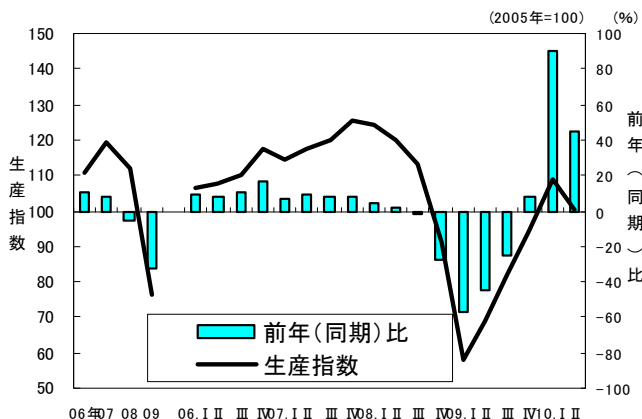
(輸送機械工業)

本県の基幹産業である輸送機械の2009年の生産指数は76.1で、前年比32.1%減となり、2年連続で低下した。これは前年後半からの急激な輸出不振による減産の影響で、自動車部品が同31.3%減、自動車と同33.0%減となったことなどによる。

09年の1年間の生産指数の動きをみると、前年10月以降の急激な低下が、09年2月を底に上昇に転じ、エコカー補助金制度の始まった6月前後から上昇も拡大していき、年末によりやくリーマンショック以前の水準の約9割に回復した。

輸送機械工業の中で32.5%のウェイトを占める乗用車の需要の動きをみると、01年以降05年までほぼ横ばいで推移していた国内の乗用車販売(軽乗用車を含む)は、09年は前年比11.5%減と3年連続で減少した。こうした中、名古屋税関管内の乗用車の輸出も同52.4%減となるなど、海外需要も前年から引き続き減少したことから国内生産は減少した。また、60.3%のウェイトを占める自動車部品も、乗用車と同様、前年からの国内外での自動車需要減退を背景に、各国の経済対策の影響で持ち直しをみせたものの生産は減少した(図表4-7)。

図表4-7 輸送機械工業の動向

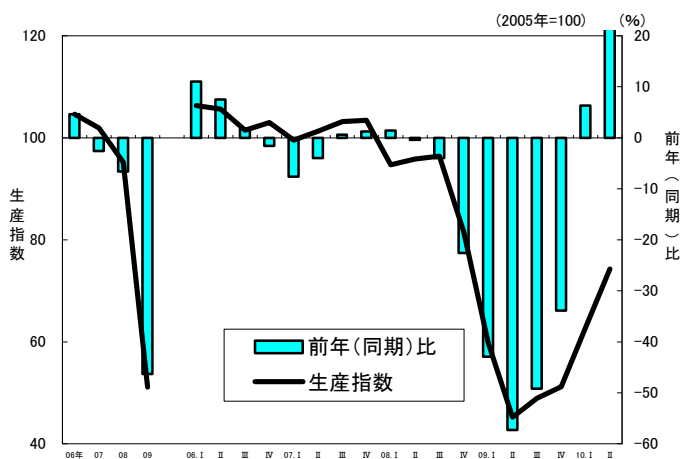


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈一般機械工業〉

2009年の一般機械の生産指数は51.1で、前年比46.3%減となり、3年連続で低下した。これは、03年以降増加が続いていた国内の設備投資が06年からかげりが出始めて、08年後半からは、国内、海外ともに設備投資を縮小する動きがでて、09年はさらにこの動きが広がり、金属工作機械が、73.5%減と前年実績の4分の1になったのを始め、機械工具が44.4%減になるなど全ての分類で低下し、3年連続の低下となった。

図表4-8 一般機械工業の動向

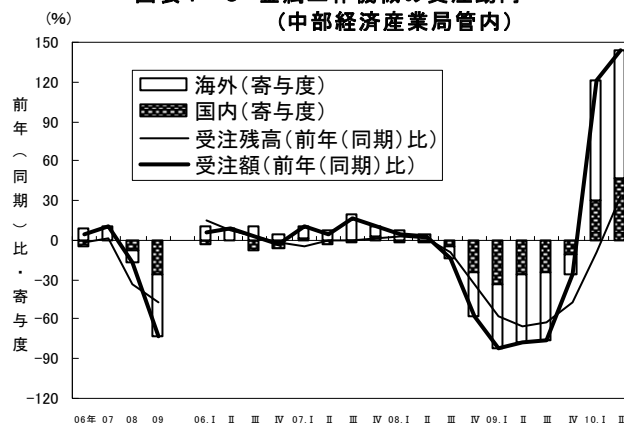


資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」

中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要8社の受注状況をみると、国内受注は前年比72.6%減と大幅に減少

し、4年連続の減少となった。海外受注は、前年からの世界規模で広がった金融危機の影響が続き、北米向けが同70.2%減と3年連続で減少、EU向けが同84.5%減と2年連続で減少した。また、金融危機の影響が比較的少なかったアジアでも、中国が39.5%減となるなど、アジア全体では58.2%減と2年連続で減少し、海外受注合計では72.1%減となった(図表4-8、4-9)。

図表4-9 金属工作機械の受注動向 (中部経済産業局管内)

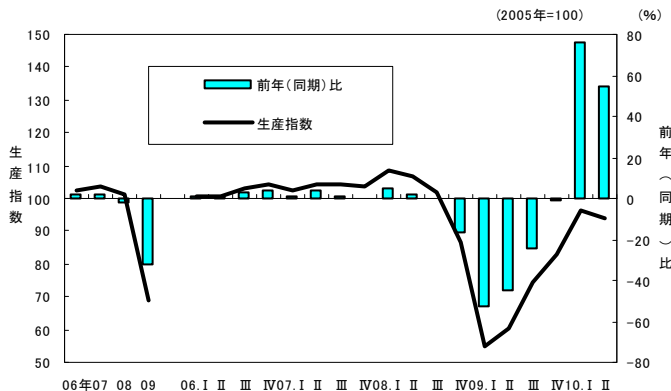


資料: 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

〈鉄鋼業〉

2009年の鉄鋼業の生産指数は68.8で前年比32.1%減となり、2年連続で低下した。これは主に輸送機械向けや産業機械向けなどが不調であったことを受け、熱間圧延鋼材が同33.5%減、鋳鍛造品が同34.8%減となったことなどによる(図表4-10)。

図表4-10 鉄鋼業の動向



資料: 愛知県統計課「あいちの鉱工業」